

第12回土木合同セミナーを開催しました！ テーマ「すすむ復興まちづくり～地方創生への取組～」

土木合同セミナー実行委員会事務局
盛岡広域振興局土木部

平成27年12月10日(木)「エスポワールいわて」において、第12回土木合同セミナーを開催し、214名の御参加をいただきました。(主催は盛岡広域振興局土木部等6団体による実行委員会)

東日本大震災津波から5年目を迎え、集中復興期間の最終年ではありますが、いまだ復興途上にあり、一方で地方創生など新たなまちづくりへの取組も求められています。今回は、「復興と地方創生」に焦点を当て、改めて被災地の現状と課題を理解するとともに、業界の枠を超えてまち・ひと・しごと創りに取り組んでいくこと等を目的として、以下のお二人から御講演をいただきました。



講演① 「復興と地方創生 ～フラッグシップとしての釜援隊とオープンシティ戦略～」

釜石市総合政策課まち・ひと・しごと創生室長 石井 重成 氏

石井氏は震災をきっかけにIターンし、釜石市職員になられた方であり、現在創生室長。復興まちづくりの調整役として立ち上げた釜援隊*プロジェクトの特徴や活動事例などを紹介いただきました。釜援隊は、個々人がフリーランスという働き方で、業務のうち20%は自ら釜石の復興に資することを考えて行う80%ルールを採用しており、20%の余白がさまざまな人間関係構築や新事業開発の種になると特徴を説明されました。多くの住民が地域の課題や可能性を自分事として捉えることが必要で、新しい事業や市民活動が生まれてくると、釜石の良さを自分の言葉で話す人が増え、結果的に人を呼び込むことにつながる、と述べられました。

*釜援隊: 半官半民の地域の調整役として、市内NPO やまちづくりの議論を行う団体をサポート。
かまえんたい
目指すは復興支援員・地域おこし協力隊業界の“トップブランド”をつくること。



石井 重成 氏

講演② 「公共事業を巡る最近の話題」 前国土交通省東北地方整備局副局長 渥美 雅裕 氏

渥美氏は、今年の10月に国土交通省を退任されたばかりであり、今年9月の東北豪雨による鳴瀬川、渋井川の当時の災害対応状況などについて臨場感のあるお話をいただきました。また、構造物の能力を超える災害が発生することはあり得るとして、100%を超える災害が発生し構造物が壊れる場合、同じ構造物でも、最後まで一定の効果を発揮しながら壊れる構造物の方がよいとし、構造物の臨界点を越えた後、どのように壊れていくかを考えていくことも重要であると述べられました。

さらに、管内で計画されている道路事業に触れながら、縦軸だけでなく横軸の整備も重要だと指摘されました。東北に人を呼び込むような策を打ち出さなければならず、そのためには、1県ごとではなく、東北全体をパッケージにしたようなものが必要で、東北6県の団結が大切だ、と述べられました。



渥美 雅裕 氏